新連載

第１回（全12回）

認知症の今

DEMENTIA NOW

現在、新しい薬の承認が審議されるなど、認知症治療について新しい動きがみられます。期待を込めて冷静に見守りたいと思います。治療に限らず、全国では、認知症の人と家族への専門的なケアや地域での支援など様々な取り組みが行われています。その成果と現状の課題などを浮き彫りにする「認知症の“今”」を特集します。最初に、新井平伊先生に、３回にわたり新しい治療薬の最新情報を伝えていただきます。

新しい認知症治療薬「アデュカヌマブ」誕生の夜明け前

アルツクリニック東京　院長　新井 平伊

世紀の大発見

おずおずと、でも手を挙げてしまっていた。どこだったか覚えていない。Dale（デイル）Schenk（シェンク）博士の論文発表が1999年だから、学会発表はその前後のはず（感情の記憶は残るが、他の記憶はほんと消えてしまうものだ）。[注：好きな作家、庄司薫氏の文体の真似]。国際学会で質問なんかしたことはないし下手な英語だから汗タラタラ、でもそうせずにはいられなかった。これが初めての遭遇だが、後にDaleが主導したワクチン療法の国際治験にElan Japan社と共に日本側のカウンターパート（協力してくれるパートナー）となったのも何かの縁だ。

このDaleの発表はそれまでの常識を覆すものだった。天然痘予防で確立したワクチン療法はいまの新型コロナにも有効で、体で作られた抗体が病原体（ウイルスや細菌）を捉えてやっつける。しかし、脳は血液脳関門という厳重な防御壁に囲まれているので抗体のような高分子蛋白質は脳組織に入れない。だから誰も脳の病気には考えなかった。しかし、アミロイドが沈着するマウス（アルツハイマー病モデル動物）にアミロイドを抗原として注射したら、老齢になっても脳内沈着が少なかった。この機序は今でも十分に解明されているとはいえない（ヒトの脳では解明できていないことがたくさんある）。でも、この発表を契機にワクチン療法（免疫療法）やアミロイド分子の前後を切り出す二つの酵素の阻害薬（アミロイドをできにくくする）による治験がヒトにまで進み、世界中から大きな期待が寄せられた。

でも、動物では良い結果でも、やはりヒトでは違った。副反応として脳炎や脳浮腫に似た変化が出たり、皮膚や眼に異常を来したり。そして、もの忘れなどの症状もあまり改善しなかった。ただし、Daleが発見したことはヒトでも証明された。アミロイドPETでも死後脳研究でも、ワクチン療法により脳内のアミロイド沈着は減っていたのである。その後は、認知機能の改善が得られないことから世界の名だたる製薬メーカーが展開した治験は全て中断・中止。

これらの反省点は、アミロイドは留まっていても、神経細胞障害が軽い、つまり発症前の人達に投与しないと、明らかな効果が期待できないというものであった。

待ちわびる患者さんのために

そしてこのような改良を経て、「アデュカヌマブ」が初めて第３相（承認前最終試験）ではっきりした臨床効果が得られた。まさに難関を突破した超エリート治験薬。そのため米国医薬品食品局(FDA)は申請を受理し総合的に審査しているが、判断が難しいのか３月末までの結論が６月末まで延期となった。

2007年の国際学会（ワシントンD.C.)にてDale Schenk博士（左）と

プロフィール

新井 平伊（あらい へいい）

現職：アルツクリニック 東京院長、
順天堂大学医学部名誉教授

◆順天堂大学医学部卒、専門はアルツハイマー病を中心とした老年精神医学。1999年我が国で唯一の「若年性アルツハイマー病専門外来」、2019年世界に先駆けてアミロイドPETを含む「健脳ドック」を導入した。近著に「脳寿命を延ばす 認知症にならない18の方法」（文春新書）など。

日本でも医薬品医療機器総合機構(PMDA)が審議中である。期待は大きい、統計学的に有意差があり効果も明確、副作用も大したことない。なら良さそうなものだが、臨床的に見るとどれほど価値がある効果か、適用となる対象者の選定は、そして高額な薬剤価格になるだろうし日本では特に健康保険制度が窮状なのに、等々議論は尽きないのだろう。

承認される可能性は半々か。いずれにしても、最初の画期的な発見から治療薬の実用化までは長い道のり。アルツハイマー病でのアセチルコリン作動系障害の報告が1976年、ドネペジル（®アリセプト）の誕生はその20年後である。Daleによる発表からも20年強が経過している。タイミング的にはそろそろかなと思う。何にもまして、次世代薬を待ちわびる患者さんに応えられたらと臨床医として切に願う。そして、Daleが生きていたら絶対にノーベル賞だ。残念の極みだが、Daleは膵臓癌にて2016年に59歳で永眠した（合掌）。

本人登場
私らしく仲間とともに
No.186

診断を受けても大丈夫、どーんと構えていれば良い

松田（まつだ） 公男（きみお）さん

69歳・福井県支部

松田さんは63歳の時にアルツハイマー型認知症の診断を受けました。診断後も仕事をしたいと就職活動に取り組み、現在は就労継続支援Ｂ型事業所で仕事を継続しています。

福井県支部世話人で、若年性認知症支援コーディネーター夏井絵美さんの聞き書きです。

（編集委員　松本律子）

診断を受けたが、実感はなかった

私は63歳の時にアルツハイマー型認知症の診断を受けました。妻に言われて病院に行ったのですが、自分は認知症じゃないと思っていて、それを証明してもらうつもりでした。認知症と言われても自分ではおかしいとは思わなくて、あまり実感はなかったし、病気だと言われることに抵抗もありました。

妻の勧めで就労継続支援B型事業所へ

熱心に作業する松田さん

はじめは週１回デイサービスで運動をしていました。でも周りは自分より高齢の人ばかりで合わないなと思いました。

「仕事をしたら」と妻に勧められて、相談に行き、今は週３回午後から作業所（就労継続支援Ｂ型事業所）に行っています。紙を折ったり、袋に詰めたり、簡単な作業ですが、楽しいです。毎回作業内容が変わるので作業のやり方を忘れてしまうこともあるけど、その時は職員の人に聞くと丁寧に教えてくれます。

散歩や講演、カフェと多彩な日々

散歩は昔から続けていて、１時間は歩いています。歩くのは気持ちがいいし、認知症にも良いと思います。顔なじみになる人もいて、声を交わします。

奥様と一緒に認知症カフェで

最近は認知症について、講演会や研修会で話をして欲しいと頼まれることも増えました。妻と若年性認知症の交流会や認知症カフェにも参加しています。作業所とは違って仕事ではないので、気楽に参加できます。他の認知症の人と話をすることもあるけど、普通の人と何も変わらないなと思います。今は新型コロナウイルス感染症の影響で旅行ができないので、また夫婦で旅行に行きたいなと思います。

できることはいっぱい、今の生活に満足

認知症の診断を受けても、私は仕事にも行っているし、散歩も続けているし、できることはたくさんあります。今の生活に満足しています。

認知症と言われても、驚ろかないで。どーんと構えていれば良いのです。

情報コーナー

本人交流の場

（詳細は各支部まで）

北海道◉5月7日㈮13:15～15:00／北海道の本人のつどい→かでる2.7
山形◉5月15日㈯13:30～15:30／置賜のつどい･本人のつどい→総合文化センター
神奈川◉5月9日㈰10:00～12:00／若年本人と家族のつどい→二俣川地域ケアプラザ
静岡◉5月11日㈫10:00～11:30／若年性のつどい→富士市役所
三重◉5月16日㈰13:30～15:30／若年のつどい→四日市総合会館
京都◉5月30日㈰13:30～15:30／若年本人･家族のつどい→ハートピア京都
広島◉5月8日㈯11:00～15:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
徳島◉5月15日㈯13:30～15:30／縁の会→県立総合福祉センター
愛媛◉5月28日㈮13:00～15:00／若年性のつどい→県在宅介護研修センター
長崎◉5月18日㈫13:30～15:30／本人のつどい･佐世保→市民活動交流プラザ
●5月22日㈯13:30～15:30／本人と家族のつどい･諫早→小鳥居諫早病院
熊本◉5月1日㈯13:00～15:00／若年のつどい→支部事務所

新型コロナウイルス感染の影響により、変更ないし、中止となる可能性があります。

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！
〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3
岡部ビル2F
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-205-5104
Eメール office@alzheimer.or.jp

ぽーれぽーれ２月号
「支部だよりにみる介護体験」を読んで

発達障害との関係は？

●愛知県　Aさん　70歳台　女性

大変興味深く拝見しました。というのも、私は介護経験者として、本人や家族の話を傾聴している中で、認知症ではなく他の障害による物忘れ等が数年続いており、本人も家族も認知症と思い込んでいる方がみえます（但し、認知症ではなくて…というのは私の考え）。前頭側頭型認知症と双極性障害という記事のうち、発達障害という項目も入っていますが、認知症状と発達障害、うつ病とも関係するのでしょうか？

当人が病院へ行きたがらないので、どんなところに相談するとか、どんな本でその説明がされているか、教えていただけませんか？

お答えします

認知症症状と発達障害、うつ病との関係について

「家族の会」理事・神経内科医　川井元晴

「もの忘れ」や日常生活に支障を生じる状態は、発達障害やうつ病でもみられます。発達障害では、かなり以前から持ち物を忘れたりなくしたりすることや、部屋を片付けられないなどの特徴がみられます。うつ病では、気分の落ち込みのために深く考えることができず、悲観的な発言や不眠などの症状が特徴ですが、認知症の人にうつ症状が生じることも多いので区別が難しい場合があります。

相談先としては、精神保健福祉センターや地域包括支援センターがあります。精神保健福祉士が配属されており相談に乗って貰えると思います。

サポートできるか心配

●群馬県　Bさん　50歳台　女性

80歳台の父は２年程前に軽度認知症と診断されました。父の再婚相手は右麻痺、要介護４で老健にいます。父は介護費用を払いながら、会社、賃貸アパート経営もしています。

同じことを何度も聞き、新しいことや、過去の記憶が抜け落ち、みずから会話をすることがなくなりました。下着、洋服は取り替えず、お風呂にも入りません。車の運転をしているので、免許返納をすすめていますが、本人は納得せず、会社に出勤しています。会社は甥に引き継いでもらい、仕事はしていません。賃貸アパート経営も父がひとりでやっていたため、今後のことと介護費用、生活の維持、相続に頭を悩ませています。弁護士、税理士の方と相談してみましたが、遺言書の書きかえは、父の様子から無理だと言われました。今の父の状態で、とくに、書類関係をサポートできるかが心配です。

記憶には強い感情刺激が必要？

●千葉県　Cさん　60歳台　男性

昨夜、神奈川県で１人暮らしをしている叔母から、軽度認知症で中度のフレイルを患う老母へTELがきた。病気がちなクリスチャン

の叔母は様態悪化で急遽、病院へ行くのだと言う。５分前後の会話だった。翌朝８時の朝食前、「昨日の今日で心配だから、叔母へTELしてみる」と言い、私は新鮮な驚きを覚えた。だって未だ無理して書道塾をやっている母は、１時間もすれば、その日やったかどうか、生徒さんが来たかどうかも忘れてしまうのだから。だが２人の30分にわたる会話を聞いていて、叔母が気の毒になった。フーガの如く母のよどみない話の中で、「どこの病院？」「いつ入院するの？」「どこが悪いの？」が、少しずつ言葉を変えながら繰り返し何度も出てくるからだ。私は思い余って×印マークを母の眼前に提示し、いささか強引に電話を切らせた。はて叔母の変調自体は覚えているのに、どうして事務的なことは忘れてしまうのだろう？ふと私は母の記憶には記憶する瞬間、強い感情刺激が必要なのではないかと思った。比喩的に言えば、扁桃体の方が海馬より頑丈にできているのかもしれない。今後早速、応用してみようと思っている。

ダブルケアは辛かった

●岩手県　Dさん　40歳台　女性

現在お姑さんはグループホームに入居しています。症状が出始めた頃は、私は乳児の育児中でした。また、同居して介護をしている時に二人目を妊娠し、上の子の育児をしながら認知症のお姑さんを介護する妊婦でした。

いわゆる「ダブルケア」です。ほんとうに辛かった。周囲に介護をしているママ友はおらず、孤独でした。そんな時に、地域包括支援センターが開催する認知症カフェに参加するようになり、少しずつ子どもとお姑さんの両方を連れて外に出られるようになりました。

また、地域包括主催の現岩手県支部代表の講演を聞きに行きました。講師は子連れで講演を聞きにきている私のことを気にかけてくださいました。その後も交流は続き、力をお借りしながら、私もダブルケアシンポジウムを開催したり、ダブルケア当事者同士の交流会を開催するようになりました。

デイサービスに行かなくなった

●福岡県　Eさん　60歳台　女性

同じ敷地内にある隣の実家には、95歳の父（要支援１）と90歳の母（要介護１）が住んでいる。母の物忘れが多くなり、週１日、２カ月間デイサービスに行かせたが、父をおいて出かけることを嫌がり、行かなくなりました。

つどいは心を癒す

●愛媛県　Fさん　40歳台　女性

認知症の父の介護を手伝うためＵターンして、あっという間の２年が過ぎました。訪問看護の仕事をしながら、生活は父を中心に回っています。食欲旺盛で、よくしゃべり、よく動く父は週４回のデイサービスに送り出すまで毎回目が離せません。一日中同じ質問を繰り返す父に、頭では理想的な対応がわかっているつもりでも、感情がついていかずついつい意地悪な言葉を返してしまいます。「お前なんか早ういんで（帰って）しまえ！」と怒らせることもしばしばあります。母と私でお互い父と煮詰まりそうになると、入れ替わりながらその場をしのいでいます。職業上認知症のことは勉強しているつもりの私でも、こんな状態なのです。職場やつどいで日々の出来事を聞いてもらい、笑ってもらうと心が軽くなります。その時は怒りで目がつり上がるような状況でも、誰かに話していると笑ってしまうような話になってしまい、子煩悩な父が私にしてくれたことをたくさん思い出すのです。つどいで私に特別なことができるわけではありませんが、話を聴くことはできます。つどいに誰か話をしに来てくれたらいいなあと思い、参加しています。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳台」等で表記しています。